

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2272300738		
法人名	医療法人財団 百葉の会		
事業所名	グループホームわたしの家		
所在地	静岡県富士市大淵352-2		
自己評価作成日	平成24年2月10日	評価結果市町村受理日	平成24年3月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 aigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2272300738&SC

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所		
所在地	静岡県葵区紺屋町5-8 マルシビル6階		
訪問調査日	平成24年3月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「ゆったり」「のんびり」「自分らしく」を念頭にその人らしさを大切に日々過ごして頂いています。職員がチームごとの会議に全員参加し、その全員が意見を言える機会を作り、情報の共有を行っています。併設病院の委員会活動や研修に参加し学び合っています。週3回のミニカンファの会議開催し、業務やケアに対しての話し合いも行っています。入居の方々が自分らしく暮らせる環境整備を随時行いプランにつなげています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

本年度組織体制が変わり、本体の病院組織と連携がより保てるようになり、連動による収穫は数多ある。本年の新人にはプリセプター(OJT制度:先輩が後輩を現場で育てる仕組み)が1年間マンツーマンでついており、技術を教え精神面をフォローする新人育成システムが導入されたことで定着率へ寄与する期待も高まっている。また、重度化が進むなか、看護師からパーキンソンや尿管カテーテルに係る隣接行為の指導を受けていて、職員の責任感や自信の醸成に繋がっている。ほかにも、法人全体で運営する医療安全委員会、感染対策委員会に個々の職員が参画することで、知識や取組意識が高まっている。その結果、ノロウイルスの対策セットが備えられたり「ノロウイルスの発生がなかった」りなど、各委員会活動の成果も徐々に始まっていて、スケールメリットを大いに活かした取組が広がっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は玄関正面に掲示しており、実践の状況をホーム会等で確認しあっている。新入職員には入職時に説明を行っている。自立支援を念頭に置きながら日常を過ごしている。	理念は玄関や事務所などに掲示し、目に入るようにしてある。目標をもち、それを達成するために職員は具体的に考えるようになっていて、また達成することで自己有効感も高まっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入り、町内の「いきいきサロン」に月1回参加し、町内行事の夏祭りなど招待され参加している。	小学生と一緒に七夕飾りを作ることや食事やおやつ作りは毎年継続している。ほかにも行事の際の見守りボランティアなど続いていることが数多あるが、法人内の保育室の子どもたちと七輪でさんまを焼いたことは本年初めての取り組みである。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	いつでも見学ができる体制を整えている。ホームの行事にボランティアで協力を得ている。福祉展の作品にも取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回を目安に行なわれており、ホームでの取り組み報告や、意見を頂いている。	市の職員のほかにも地区会長や民生委員の参加を得て、毎回事業所の報告をおこなっている。家族の参加数を増やしたいとの思いから昼間から夜間開催に変更も試みたが、成果に繋がってはいない。	困りごとや看取りなどの不安や課題を家族と共有できるような集いへと発展していくことを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市主催の研修参加。平成24年度より介護相談員導入していく。	市は運営推進会議に毎回参加し、事業所を理解しようと努めてくれている。一方事業所も、市からの依頼にはできる限り応えていて、例えばキャラバンメイトにおける講師要請があった場合は、職員の勤務調整に尽力している。ほかにも、市の福祉展にも利用者が毎年出品している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束0宣言をしており、外部研修や併設施設の研修に参加している。緊急やむおえない場合の「切迫性」「非代替性」「一時性」の書面があり読み合わせや、勉強会に取り組んでいる。	朝の申し送りや月例会議で意識が途切れないように繰り返し克己している。言葉の言い換えの勉強会やビジュアル(DVD)によるロールプレイ教材からグループワークをおこなっており、スピーチロックや倫理に関するアンケートも実施している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての研修参加や、日常の振り返りを行いながら虐待が見過ごされないように取り組んでいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修や併設施設の地域連携室に相談する等努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な時間をいただき説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱設置。面会簿にアンケートを記入する項目を設け、職員と話し合いを行い反映させている。	面会やプランの更新時に家族の意見を伺うようにしたり、面会簿にアンケート欄を設けているが、今のところ提言や苦言はない。他にはお茶を出すなどして滞留時間を長くとももらえるようにしている。また、本年からブログを始めている。	次の2つの取り組みを期待する。①家族が職員の顔と名前が一致するよう、名札などの工夫(すでに玄関に顔写真と名前の掲示はあるが) ②親族へブログの広報・宣伝
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回の面接や気づきノート・申し送りノートやミニカンファの時間に意見や提案を聞きながら検討している。	目標管理において個人面談に取り組んでいて、そのプロセスのなかで多様な職員意見を受け取ることができている。今後は職員アンケートや役職者評価の実施を予定している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	目標管理や能力評価などを行いながら、各自向上心が持てるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修参加を促しながら、個々にあった研修に参加を行っている。勤務表作成時に取り入れている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH連絡会の交流会に参加し、交換実習を行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の生活歴5枚のシートに記入して頂き、事前に本人に対するケアの取り組みを立案している。本人の状況やご家族の意見・要望を分まえながら安心して過ごして行ける関係づくりを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接時にご家族の要望・意見・現在困っている事を聞き、不安な事柄に対しどのようにしていくかを明確にし関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状況やご家族の要望を見極めながら対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が気持ちよく役割が行えるように、関わりを持っている。時には職員が教えて頂く事もある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	担当職員が、月1回本人の状況をお便りで伝えている。緊急時にはご家族に連絡し相談し合っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時等ゆったりと過ごせる環境を整えている。意志の疎通が難しくなってきた方への面会に対し職員が間に入るように努めている。	信仰活動を続けたり、趣味の競馬TVを観たり、縫物など在宅時のアクティビティを継続している利用者もいる。墓参りや外食などは家族の協力を得ており、ほかにも定期でOB会へ参加する人もいて、出先で快適に過ごせるよう菜などの準備に配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家事等分担できるように関わっている。入浴時には、仲の良い方たちが共に入ることもある。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	お見舞いに行ったり、葬儀に参列する等努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族からの情報をもとに、本人に状況をふまえて職員間話し合いを持ち、検討している。	入所時に「発症経過」「生活の様子」といった事柄について家族に記入してもらい、その情報を基にアセスメントシートを作成して、家族と協働で完成させている。プラン更新と同時に書き換えていて、最新の情報を把握するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族からの情報や、これまでの経過を個々にファイルしており、新入職員も把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の健康チェックや、介護日誌から把握できるように記録し、朝の申し送りで情報の共有を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	説明時に意見や要望を取り入れ、ケアプランに反映出来るように作成し、職員全員が把握できるように月ケアプランのシート作成し介護記録と共にファイルしてある。	ケアプランの中から具体的な内容を介護記録にピックアップし「やったか、やらないか」を日々チェックしていて、定期的に振り返ることができる欄も設けている。実践が堅実なことから確かなモニタリング、活発なカンファレンスへと繋がっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録・月ケアプランに記入しながら実践している。ホーム会やミニカンファ時に検討を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族と共に病院受診を行うなど状況に合わせて取り組んでいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の必要時に楽しむ事が出来るように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療が月1回あり主治医との連絡や相談事が出来ている。ご家族には連絡しながら関係を築いている。	看護師が週1回、医師の訪問が月1回あり、健康管理に留意している。真向かいには母体である病院があるため、医療のなかに事業所があるかのような安心感を得ている。看護師による隣接行為の勉強会も3~4回おこなっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションとの連携で、入居者個々の記録用紙があり、情報の共有を行っている。訪問看護師が講師になり勉強会も行われている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族との連絡を密にとりながら、主治医と早期退院できる相談をするように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期についての指針があり同意書を頂いている。主治医・ご家族との話し合いを重視し支援に取り組んでいる。	重度化が進む中、看護師から隣接行為(例.尿管カテーテルの場合:溜まった尿をバックから捨てる際に衛生管理に基づいた処置ができることなど)を学び、体得できるように取り組んでいる。研鑽を積み重ねていて有事に備えてはいるが、医療行為が必要となった場合は家族とも相談し、病院への手続きを進めることとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員は緊急時の対応マニュアルを周知している。研修を行いながら実践力を身につけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設施設の応援態勢があり、昼夜を問わず避難できる方法を職員と共に模索し身につけている。	通常の訓練のほかに、連絡網、緊急時通報装置の訓練を各1回ずつおこなっている。2階の利用者の避難については課題としていて、毛布を使った方法など模索している。近隣に住宅が少なく協力を得ることが難しいが、母体病院からの応援が期待でき、ほかにも警備会社と契約も結んでいる。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人が選択できる言葉かけを行いながら対応している。トイレ誘導など、周囲に配慮しながら行われている。なれ合いにならないように言葉使いに注意している。	声掛けは「～さん」づけで呼ぶようにしている。入浴や排泄に限らず、利用者本人が見られたくない言動については、周囲の人の視線や意識をそらすような工夫もしている。入浴介助も同性介助に決めてしまわず、利用者本人の要望に応じている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が自分の思いを話せるような環境作りや、自己決定が出来るように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースを大切に、本人の状態を考慮し希望が気軽に伝えられる環境作りを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人に洋服を選んでもらえる環境作りや、本人希望により併設病院から美容師がホームに来ていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	準備から入居の方々が出来ることをやっていたり、料理の香りや音で食事時を感じていただきスタッフと共に召し上がっている。片付けも役割として行っている。常にスタッフは感謝の気持ちを伝えている。	毎食メニューは撮影して実食簿に材料や所見とともに記載した上で本部へ提出し、都度アドバイスを得ている。また、「美味しい」ことへの追求でご飯はガス炊きをしている。行事食やお誕生日食にも取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重測定や食事量・水分量の把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアをスタッフと共に行いながら、本人の力量に応じたケアを心がけている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握するとともに、さりげない言葉かけを行うなど日々繰り返しながら支援している。	オムツの人が2名いるほかは誘導によりトイレできている。「気持ちよく」「費用負担が少なく(家族の)」ということも踏まえ、間隔をチェックしたり、しぐさを確認するなどしてタイミングのよいアプローチを心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事量や水分量を個々に把握し、カスピ海ヨーグルトや食物繊維を使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の入浴したいタイミングに合わせて入浴を行っている。本人が入浴したくなる言葉かけを心がけている。	毎日湯をはって午後ならいつでも対応している。入浴が苦手な人にも2日に1回をめやすとして入ってもらっていて、清潔保持に心がけている。マンツーマン介助のため、職員と歌を唄ったり、会話を楽しむ利用者もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の状態を観察しながらおこなっている。夜間は安心して休めるようにスタッフの表情や言葉かけに気づかっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋の確認、薬出しのチェック表作成し確実の内服出来るように支援し、訪問服薬指導との報告・連絡・相談を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の状況や、訴えに注意を払いながら、その方の気分転換になることを支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	本人の希望や、雰囲気を感じながら散歩や外出企画を立て実施している。	午前中は庭で歌を唄ったり、洗濯干しをして外気浴を慣習化させている。また、本体の病院が開催する「青空バイキング」や「敬老会」などの行事に出掛けたり、屋上にある野菜を眺めたり、売店でアイスを買ったりなども日常化している。遠出は年間計画で、近隣へのドライブは月毎に立案している。職員と食材の買い出しに同行する利用者もいる。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物時に本人の様子を伺いながら、できることを行って頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の状況により支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や季節の壁紙をスタッフと共に作成している。日がまぶしい時にはカーテンをすするなど 不快ないように支援している。	換気は1日に2~3回おこなっていて、加湿器も備わっている。白内障など目の病気の利用者もいるため、カーテンの開け閉めの配慮もしている。ソファの位置なども動線を考えて配置されているほか、要所要所に椅子とソファがありくつろぎの場を提供している。	温度・湿度や清掃チェックなどの記録が今後の課題と考えているとのことなので、ぜひ実施を期待する。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にソファを設置し、仲の良い方々が人ときでも過ごせる空間作りを工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具を配置し、ご家族の写真を飾るなどのご家族と共に工夫している。茶碗・箸・お椀などは入居時に使用していたものを持参して頂き、割れてしまったものは本人と購入していく。もしくは担当が購入し各自の物を使用している。	事業所から家族にお願いして、家具などに倒壊対策は備わっている。利用者毎に日を決めて重点的に掃除しているため、室内は清潔に保たれている。ドアは居室毎に異なり、それぞれが家であるという独自性ととも本人が迷わない工夫があると受け止められた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりが不安なく生活できるように工夫し、戸惑わないようにスタッフは寄り添っていることを日々心がけている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は玄関正面に掲示しており、実践の状況をホーム会等で確認しあっている。新入職員には入職時に説明を行っている。自立支援を念頭に置きながら日常を過ごしている。	理念は玄関や事務所などに掲示し、目に入るようにしてある。目標をもち、それを達成するために職員は具体的に考えるようになっていて、また達成することで自己有効感も高まっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内会に入り、町内の「いきいきサロン」に月1回参加し、町内行事の夏祭りなど招待され参加している。	小学生と一緒に七夕飾りを作ることや食事やおやつ作りは毎年継続している。ほかにも行事の際の見守りボランティアなど続いていることが数多あるが、法人内の保育室の子どもたちと七輪でさんまを焼いたことは本年初めての取り組みである。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	いつでも見学ができる体制を整えている。ホームの行事にボランティアで協力を得ている。福祉展の作品にも取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回を目安に行なわれており、ホームでの取り組み報告や、意見を頂いている。	市の職員のほかにも地区会長や民生委員の参加を得て、毎回事業所の報告をおこなっている。家族の参加数を増やしたいとの思いから昼間から夜間開催に変更も試みたが、成果に繋がってはいない。	困りごとや看取りなどの不安や課題を家族と共有できるような集いへと発展していくことを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市主催の研修参加。平成24年度より介護相談員導入していく。	市は運営推進会議に毎回参加し、事業所を理解しようと努めてくれている。一方事業所も、市からの依頼にはできる限り応えていて、例えばキャラバンメイトにおける講師要請があった場合は、職員の勤務調整に尽力している。ほかにも、市の福祉展にも利用者が毎年出品している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束0宣言をしており、外部研修や併設施設の研修に参加している。緊急やむおえない場合の「切迫性」「非代替性」「一時性」の書面があり読み合わせや、勉強会に取り組んでいる。	朝の申し送りや月例会議で意識が途切れないように繰り返し克己している。言葉の言い換えの勉強会やビジュアル(DVD)によるロールプレイ教材からグループワークをおこなっており、スピーチロックや倫理に関するアンケートも実施している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての研修参加や、日常の振り返りを行いながら虐待が見過ごされないように取り組んでいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修や併設施設の地域連携室に相談する等努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な時間をいただき説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱設置。面会簿にアンケートを記入する項目を設け、職員と話し合いを行い反映させている。	面会やプランの更新時に家族の意見を伺うようにしたり、面会簿にアンケート欄を設けているが、今のところ提言や苦言はない。他にはお茶を出すなどして滞留時間を長くとももらえるようにしている。また、本年からブログを始めている。	次の2つの取り組みを期待する。①家族が職員の顔と名前が一致するよう、名札などの工夫(すでに玄関に顔写真と名前の掲示はあるが) ②親族へブログの広報・宣伝
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回の面接や気づきノート・申し送りノートやミニカンファの時間に意見や提案を聞きながら検討している。	目標管理において個人面談に取り組んでいて、そのプロセスのなかで多様な職員意見を受け取ることができている。今後は職員アンケートや役職者評価の実施を予定している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	目標管理や能力評価などを行いながら、各自向上心が持てるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修参加を促しながら、個々にあった研修に参加を行っている。勤務表作成時に取り入れている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH連絡会の交流会に参加し、交換実習を行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の生活歴5枚のシートに記入して頂き、事前に本人に対するケアの取り組みを立案している。本人の状況やご家族の意見・要望を分まえながら安心して過ごして行ける関係づくりを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接時にご家族の要望・意見・現在困っている事を聞き、不安な事柄に対しどのようにしていくかを明確にし関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状況やご家族の要望を見極めながら対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が気持ちよく役割が行えるように、関わりを持っている。時には職員が教えて頂く事もある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	担当職員が、月1回本人の状況をお便りで伝えている。緊急時にはご家族に連絡し相談し合っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時等ゆったりと過ごせる環境を整えている。意志の疎通が難しくなってきた方への面会に対し職員が間に入るように努めている。	信仰活動を続けたり、趣味の競馬TVを観たり、縫物など在宅時のアクティビティを継続している利用者もいる。墓参りや外食などは家族の協力を得ており、ほかにも定期でOB会へ参加する人もいて、出先で快適に過ごせるよう菜などの準備に配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家事等分担できるように関わっている。入浴時には、仲の良い方たちが共に入ることもある。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	お見舞いに行ったり、葬儀に参列する等努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族からの情報をもとに、本人に状況をふまえて職員間話し合いを持ち、検討している。	入所時に「発症経過」「生活の様子」といった事柄について家族に記入してもらい、その情報を基にアセスメントシートを作成して、家族と協働で完成させている。プラン更新と同時に書き換えていて、最新の情報を把握するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族からの情報や、これまでの経過を個々にファイルしており、新入職員も把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の健康チェックや、介護日誌から把握できるように記録し、朝の申し送りで情報の共有を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	説明時に意見や要望を取り入れ、ケアプランに反映出来るように作成し、職員全員が把握できるように月ケアプランのシート作成し介護記録と共にファイルしてある。	ケアプランの中から具体的な内容を介護記録にピックアップし「やったか、やらないか」を日々チェックしていて、定期的に振り返ることができる欄も設けている。実践が堅実なことから確かなモニタリング、活発なカンファレンスへと繋がっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録・月ケアプランに記入しながら実践している。ホーム会やミニカンファ時に検討を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族と共に病院受診を行うなど状況に合わせて取り組んでいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の必要時に楽しむ事が出来るように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療が月1回あり主治医との連絡や相談事が出来ている。ご家族には連絡しながら関係を築いている。	看護師が週1回、医師の訪問が月1回あり、健康管理に留意している。真向かいには母体である病院があるため、医療のなかに事業所があるかのような安心感を得ている。看護師による隣接行為の勉強会も3～4回おこなっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションとの連携で、入居者個々の記録用紙があり、情報の共有を行っている。訪問看護師が講師になり勉強会も行われている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族との連絡を密にとりながら、主治医と早期退院できる相談をするように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期についての指針があり同意書を頂いている。主治医・ご家族との話し合いを重視し支援に取り組んでいる。	重度化が進む中、看護師から隣接行為(例.尿管カテーテルの場合:溜まった尿をバックから捨てる際に衛生管理に基づいた処置ができることなど)を学び、体得できるように取り組んでいる。研鑽を積み重ねていて有事に備えてはいるが、医療行為が必要となった場合は家族とも相談し、病院への手続きを進めることとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員は緊急時の対応マニュアルを周知している。研修を行いながら実践力を身につけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設施設の応援態勢があり、昼夜を問わず避難できる方法を職員と共に模索し身につけている。	通常の訓練のほかに、連絡網、緊急時通報装置の訓練を各1回ずつおこなっている。2階の利用者の避難については課題としていて、毛布を使った方法など模索している。近隣に住宅が少なく協力を得ることが難しいが、母体病院からの応援が期待でき、ほかにも警備会社と契約も結んでいる。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人が選択できる言葉かけを行いながら対応している。トイレ誘導など、周囲に配慮しながら行われている。なれ合いにならないように言葉使いに注意している。	声掛けは「～さん」づけで呼ぶようにしている。入浴や排泄に限らず、利用者本人が見られたくない言動については、周囲の人の視線や意識をそらすような工夫もしている。入浴介助も同性介助に決めてしまわず、利用者本人の要望に応じている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が自分の思いを話せるような環境作りや、自己決定が出来るように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースを大切に、本人の状態を考慮し希望が気軽に伝えられる環境作りを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人に洋服を選んでもらえる環境作りや、本人希望により併設病院から美容師がホームに来ていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	準備から入居の方々が出来ることをやっていたり、料理の香りや音で食事時を感じていただきスタッフと共に召し上がっている。片付けも役割として行っている。常にスタッフは感謝の気持ちを伝えている。	毎食メニューは撮影して実食簿に材料や所見とともに記載した上で本部へ提出し、都度アドバイスを求めている。また、「美味しい」ことへの追求でご飯はガス炊きをしている。行事食やお誕生日食にも取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重測定や食事量・水分量の把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアをスタッフと共に行いながら、本人の力量に応じたケアを心がけている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握するとともに、さりげない言葉かけを行うなど日々繰り返しながら支援している。	オムツの人が2名いるほかは誘導によりトイレできている。「気持ちよく」「費用負担が少なく(家族の)」ということも踏まえ、間隔をチェックしたり、しぐさを確認するなどしてタイミングのよいアプローチを心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事量や水分量を個々に把握し、カスピ海ヨーグルトや食物繊維を使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の入浴したいタイミングに合わせて入浴を行っている。本人が入浴したくなる言葉かけを心がけている。	毎日湯をはって午後ならいつでも対応している。入浴が苦手な人にも2日に1回をめやすとして入ってもらっていて、清潔保持に心がけている。マンツーマン介助のため、職員と歌を唄ったり、会話を楽しむ利用者もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の状態を観察しながらおこなっている。夜間は安心して休めるようにスタッフの表情や言葉かけに気づかっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋の確認、薬出しのチェック表作成し確実の内服出来るように支援し、訪問服薬指導との報告・連絡・相談を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の状況や、訴えに注意を払いながら、その方の気分転換になることを支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	本人の希望や、雰囲気を感じながら散歩や外出企画を立て実施している。	午前中は庭で歌を唄ったり、洗濯干しをして外気浴を慣習化させている。また、本体の病院が開催する「青空バイキング」や「敬老会」などの行事に出掛けたり、屋上にある野菜を眺めたり、売店でアイスを買ったりなども日常化している。遠出は年間計画で、近隣へのドライブは月毎に立案している。職員と食材の買い出しに同行する利用者もいる。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物時に本人の様子を伺いながら、できることを行って頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の状況により支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や季節の壁紙をスタッフと共に作成している。日がまぶしい時にはカーテンをすするなど 不快ないように支援している。	換気は1日に2~3回おこなっていて、加湿器も備わっている。白内障など目の病気の利用者もいるため、カーテンの開け閉めの配慮もしている。ソファの位置なども動線を考えて配置されているほか、要所要所に椅子とソファがありくつろぎの場を提供している。	温度・湿度や清掃チェックなどの記録が今後の課題と考えているとのことなので、ぜひ実施を期待する。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にソファを設置し、仲の良い方々が人ときでも過ごせる空間作りを工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具を配置し、ご家族の写真を飾るなどのご家族と共に工夫している。茶碗・箸・お椀などは入居時に使用していたものを持参して頂き、割れてしまったものは本人と購入していく。もしくは担当が購入し各自の物を使用している。	事業所から家族にお願いして、家具などに倒壊対策は備わっている。利用者毎に日を決めて重点的に掃除しているため、室内は清潔に保たれている。ドアは居室毎に異なり、それぞれが家であるという独自性ととも本人が迷わない工夫があると受け止められた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりが不安なく生活できるように工夫し、戸惑わないようにスタッフは寄り添っていることを日々心がけている。		